

## 2次審査 講評

<p style="text-align: center;"><b>大賞</b></p> <p>(小学校下学年の部)</p>	<p>作品のテーマと技法が見事に一致した作品です。夢中になって、大きなぶどうを探して摘み取ろうとする男の子の大きな瞳、黒いブドウの実の大胆な彫りからは、「ブドウが食べたい」という気持ちが伝わってきます。腕や顔に彫り残されたガザガザとした感じの「かすれ」は、日に焼けた男の子の元気いっばいの姿を表現しているようです。</p>
<p style="text-align: center;"><b>大賞</b></p> <p>(小学校上学年の部)</p>	<p>黒い紙に一版多色木版を使って表現した力作です。初めて使うミシンは、この生徒にとって、よほど魅力ある機械だったのでしょう。まるで旋盤に向かう大人の職人のような真剣なまなざしです。それにしても緑色の背景と水色のシャツ、赤と茶色がかったピンクの顔の、油絵に似たタッチは何と魅力的なのでしょう。《がんばったミシン》という作品名もいい。</p>
<p style="text-align: center;"><b>大賞</b></p> <p>(中学校の部)</p>	<p>ドライポイントで、本の中の活字を表すというユニークな作品。細かいのにもかかわらず、読むことができるような文字表現と技術は中学生ばなれしています。開いた本の背後に重ねられた書籍の繊細な線の重なりも秀逸。この版画を本好きの人の書齋に飾ったら、どんなに見事だろうと想像してしまいます。</p>

<p style="text-align: center;"><b>準大賞</b></p> <p>(小学校1年)</p>	<p>ザリガニのザラザラとした質感が素晴らしい。スタンピングで表現された地面や海の表現も上手です。</p>
<p style="text-align: center;"><b>準大賞</b></p> <p>(小学校2年)</p>	<p>「羊の毛を切る」という主題にふさわしく、背景を省略し、羊と少年とハサミだけを版画にしたところが見事です。特に画面中央にある大きなハサミは、本来「切る」道具なのに、羊と少年を「つなぐ」道具に見えてくるといふ、不思議な魅力を生み出しています。</p>
<p style="text-align: center;"><b>準大賞</b></p> <p>(小学校3年)</p>	<p>闇の中の蝶々という、大人の版画家でも難しい「詩的」なテーマに挑戦し、完成させています。小さな点で表現された、円形の空間が神秘的で、観る者の心を惹きつけて止みません。</p>

<p>準大賞 (小学校4年)</p>	<p>バッドをスイングし振り抜いた野球選手の力強さと、闇の中を炎のように飛んでゆくボールから、「これは絶対ホームランだ」と予感させます。細かい点で表されたグラウンドと、彫刻刀で細かく彫られたユニフォームが、土まみれになったワイルドな印象を生み出しています。ワンパクな小学4年生らしい、いい作品です。</p>
<p>準大賞 (小学校5年)</p>	<p>書道に集中する作者の真面目な性格が伝わる作品。うつむき加減な顔の表情、筆を持つ手と半紙を抑える手の違いも見事です。背景の壁の文様が、これから筆で書こうとする「点」に似ていることに驚きました。さらに半紙と名札の間の黒い空間が、息を止めて書こうとする、女の子の集中力が溜まる空間のようで感動します。木版画の「黒」と「白」がこんなにも深い意味を持つ作品は稀です。</p>
<p>準大賞 (小学校6年)</p>	<p>ミシンを見る女の子の、集中しているけど楽しそうな表情がとてもいいです。ミシン本体や顔や腕や手に残る彫り跡が、木版画らしくて好感が持てます。</p>
<p>準大賞 (中学校1年)</p>	<p>ブックデザインを版画で制作した意欲作。自分のイニシャルであるUTと鳥の姿が簡潔にデザインされ、それを繰り返し根気よく彫って作品にしました。「根気よく無心に彫る」ことはとても大事です。川上澄生はどんな時でも「無心に彫る」ことができる版画家でした。</p>
<p>準大賞 (中学校2年)</p>	<p>「ドライポイント」というタイトルですが、階段に座る女子中学生が彫られています。恥ずかしくて顔を隠すというテーマが、いかにもティーンエイジャーらしく感動的です。また斜めに傾いた階段が、この年齢の不安定な気持ちを表しています。いい作品です。</p>
<p>準大賞 (中学校3年)</p>	<p>「優雅」という文字から浮かぶイメージを版画にした作品。このような抽象性の目覚めもティーンエイジャーの特徴です。「抽象」は難しい制作表現ですが、諦めずこれからも挑戦して行ってほしいです。</p>

## 小学校 一次審査講評

1年	<ul style="list-style-type: none"><li>・技法はスタンプ中心だった。</li><li>・構図のまとまり、素材の形の活かし方や使い分け、色彩や形のバランスなどに光るものがあった作品を、特に評価した。</li><li>また、モチーフに動きがあった作品は目を惹いた。</li></ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"><li>・紙版画作品が中心だった。</li><li>・1年生同様、構図や色彩構成などの観点に加えて、「自分が表現したいものを作り出すために、色々な紙の形をどのように組み合わせているか」に注目して審査をした。</li></ul>

3年	<ul style="list-style-type: none"><li>・スタンプ、コラグラフ、紙版画など、3年生は多様な技法の作品があった。また、1・2年生に比べ、抽象画が多くあった。</li><li>・細部の描き込みなど、完成度を高めるために根気強く意欲的に制作した跡のある作品が特に魅力的であった。</li></ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"><li>・はじめて木版画に触れる生徒が多かったようだが、彫刻刀を使い分けながら描写できているかを評価のポイントにした。</li><li>・白黒のバランスや背景の描き込み不足などで勿体なく感じる作品が多かったが、それらの点まで意識して制作していた作品は高く評価した。</li></ul>

5年	<ul style="list-style-type: none"><li>・彫刻刀の使い方に慣れてきて、完成度の高い作品が多い印象だった。その中で、構図の工夫や彫りの巧みさが際立つ作品を特に評価した。</li></ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"><li>・墨摺りの作品は、根気良く彫りに取り組んでいる作品が特に魅力的だった。</li><li>・多色刷り作品は、配色の妙が優れていた作品は高評価だった。また、黒い用紙を用いて、背景の黒色を上手く生かしながら制作している作品があったのは驚きであった。</li></ul>

## 中学校 一次審査講評

1年	<ul style="list-style-type: none"><li>・自身の内面を表現したような抽象的な作品が多かった。また、形のおもしろさを上手く利用した作品も多かった。</li><li>・自身の世界観を意識的に上手くまとめていた作品が目を惹いた。</li></ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"><li>・技法はドライポイント、リトグラフが中心だったが、白黒のバランスを意識しているものを特に評価した。</li><li>・1年生よりも更に自分の内面を表現している作品が多い印象だった。</li><li>・描き込みなど、作者の熱意を感じる作品は特に目を惹いた。</li></ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"><li>・2年生の評価点に加え、根気よく描き込み、作品を作り上げていった作品を特に評価した。</li></ul>